

あま かわべ
天の川辺



双葉中学校通信

No.4(2025.6.9 発行)

〔文責:澤田隆文〕

教育目標 梦・志をもって挑戦し続ける自分をめざそう

～努力を積み重ねる誠実さと情熱、しなやかな心で、可能性は無限大～

目指す生徒像 自分の将来に夢を抱き、自分の力を社会に生かそうとする志をもった双中生

双葉中学校ホームページ
はこちらから

命の大切さを学ぶ教室～ともに認め、支え合える社会に～

5月26日（月）に、滋賀県警察本部と渡邊達子さん、勇さんのご協力を得て、「命の大切さを学ぶ教室」を開催しました。犯罪被害者の遺族として、ご自身の哀しみや苦しみを語ってくださった講師の方は、6年前の2019年（令和元年）7月18日に起きた、アニメ製作会社「京都アニメーション」第1スタジオへの放火殺人事件で大切な娘を亡くされました。

この放火殺人事件により、社員として働いておられた36人の尊い命が失われ、34人の方々がやけどなどの重軽傷を負いました。

日本国内で過去に例を見ない大規模な惨事となり、遺族や関係者に深い悲しみと怒りをもたらすと同時に、日本社会にも大きな不信感と不安をもたらしました。

渡邊さん親子は、理不尽な事件を振り返り、大切な人を失う哀しさやつらさを話してくださいました。そして、大切な人たちの命が尊重される社会にするためには、自分のことだけではなく、まわりの人のことも理解し、支え合える社会になることが必要だと訴えられました。そのためには、「ありがとうを探せる人に成長して欲しい」というメッセージをいただきました。そして、「不安や怖れ、苦しみを感じる心の風邪は一人で抱えないでカウンセラーや誰かに話して欲しい」と伝えていただきました。

将来を担う双中生の皆さんにとって、命の大切さや尊さを考える貴重な機会として欲しいと願います。



私は今日も生きています。しかし、講演を聴いて、今日生きていること、また明日がやってくることは当たり前ではないと思いました。当時ニュースを見て、当時小学3年生だった私は強い衝撃を受けたことをはっきりと覚えています。多くの尊い命が奪われ、多くの方が重軽傷を負われたことは哀しく、怒りがこみ上げてきます。大切な人を亡くすという現実を前に、哀しみ、つらさ、苦しさ、怒りなど一言では言い表せない気持ちになるのだと感じました。社会で起きていることを他人事とせず、人の気持ちを想像し理解していくことができれば、人を傷つけたり命を軽く扱ったりすることはなくなります。すべての人の命はかけがえのないものだとあらためて認識し、これから生きていく中で、自分の命も他の誰かの命も決して奪ったり奪われたりすることのない社会を実現するため、しっかりと生きていくことをお誓いします。